

平成25年度教育研究交流委員会 国際交流事業 ハリム大学看護学科学生受け入れとハリム大学訪問

教育研究交流委員会：金子典代、嶋田理佳、山口孝子、香月富士日、市川誠一

教育研究交流委員会では国際交流の推進を続けており、平成24年度は本学学生4名をハリム大学へ送り短期滞在を行った。平成25年度はハリム大学看護学科学生を4名本学に受け入れを実施し、学生間交流と教員間の交流を行った。その概要を下記に報告する。

I ハリム大学看護学科生の名古屋市立大学看護学部への受け入れ、教員の招聘についてのまとめ

1) プログラム内容について

(詳細プログラムは表1を参照)

- ① 名市大病院での見学実習(手術室、災害対応、ICU、NICU)が最も学生にとって印象深かったようであり、看護部の協力を感謝したい。
- ② 健康科学の講義についても看護の専門の講義ではないが、本学学生にとっては国際交流の意識づけにはなった。
- ③ 精神障がい者地域復帰支援施設、エイズ予防啓発センターの見学も計画通り進行し、公衆衛生に関するプログラムの日韓の違いの理解につながったかと思う。
- ④ シミュレーションセンター、看護学部実習室見学はハリム大学の学生には興味深かったようだ。
- ⑤ 本学の国際交流に関心のある学生との交流会は、みな積極的に取り組んでおりよい機会となった。昨年度参加者のうち2名(4年生：鈴木彩さん、卒業生：塚本裕子さん)が交流に参加した。

2) 学生の選定について

- ① ハリム大学の担当者教員が応募学生の日本語力、英語力、学力等から選考した。10名応募があり、4名が選出された。
- ② ハリム大学側の随行教員の渡航費用は本学より支出が可能となったため、ハリム大学より、参加学生に対して4万円程度の金銭補助が出たとのことである。

3) 時期について

- ① 実習、講義の時期であり名市大側にはスケジュール的には厳しい時期ではあった。

4) 名市大の留学生寮の使用について

(川名より徒歩5分程度、名市大より徒歩15分)

- ① 日本への訪問前にパスポートのコピー、入寮申請書、プログラム参加証明書など3つの種類が必要であり、入寮にあたって日本語の4-5種類の書類をそれぞれ提出する必要がある、受け入れ側もすべてに細かく目を通す時間がなく、学生への書類内容の説明、記載依頼や提出の手続きに相当な時間を要した。
- ② 費用としてはすべて込みで約10,000円(全期間)であり妥当であった。利便性にも問題ないと思われる。最後のゴミの回収、部屋のチェック、鍵の返却、電気のメーター、ガスの締めへの立会いなど教員が寮に出向き行う作業が複数あり、負担が大きかった。

5) 学生の安全について

- ① 今回一度自由行動ではぐれてしまった学生は、海外旅行が初めてであり、また英語も苦手であった。ある程度の英語力が参加学生には求められる。ハリム大学学生同士でネット使用が可能であったため、一緒に行動していた学生と何とか合流することができ、事なきを得たが、日本国内で使用する携帯をレンタルするなど安全確保の方法を考案する必要がある。

6) 学術課、国際交流課との協力関係について

- ① 学長表敬訪問の機会や国際交流センターでの留学生間の交流会の機会も設定していただいた。ニュースレターにも広報していただくなど宣伝になったかと思う。
- ② 学生課国際交流係の職員が入寮に関して尽力してもらったことで、留学生寮の短期使用が可能となった。

II ハルリム大学看護学科への本学教員の訪問

11月28日から30日にかけて、市川委員長、金子典代委員、山口孝子委員の3名がハルリム大学へ訪問した。本渡航の目的は、

1. 今年度の学生間交流プログラムの振り返りと今後の方向性の検討、
 2. 来年度の学生間交流プログラムの際の実習先病院の見学、
 3. 教員間の共同研究の推進
- の3点である。

1) ハルリム大学での教員・学生との交流会

11月28日には、ハルリム大学にて会議・交流会を開催していただいた。参加者はハルリム大学看護学科の学生、教員であった。本年度名古屋に来たハルリム大学看護学科より留学プログラムについてのプレゼンテーション、金子委員よりこれまでの交流プログラムの振り返りと今後の展望、山口委員より本学の小児看護学実習・カリキュラム、プリパレーションの実践状況に関するプレゼンテ

ーション、市川委員よりモンゴルのエイズの疫学と予防介入についてのプレゼンテーションが行われた。ハルリム大学の本学でのプログラム参加学生のプレゼンテーションでは、非常に充実した内容であったことが語られ、ぜひ今後もこのプログラムを続けてほしいという希望が出された。また今後費用面での負担、現地での学生の安全確保、留学生用宿舎を2人で使用する可能性についても討議を行い、双方が望ましいあり方について検討を進めることとなった。

2) ソウル市内の病院見学

来年度名市大学生がハルリム大学へ留学した際に実習先として候補に挙がっているソウル市内のハルリム大学医学部附属病院の看護部スタッフとの会合、看護師との交流、病院見学を行った。看護部の受け入れが非常に積極的であること、日本への留学経験がある看護師が3名おり、英語が堪能な看護師が複数いることから実習候補先として選ばれている。名市大側から来年度4名の学生が行く予定であることの確認、またICU、救急外来、産科病棟の見学、病院紹介を受けることができた。

表1 受け入れプログラムの詳細

日程	午前	午後1	午後2(17時以降)
6月17日 (月)	11:30 空港到着 来日	14:00 大学到着 306室 14:30 オリエンテーション 15:00 学部内案内 15:30 4学生 宿泊寮 15:30 2教授 宿泊施設	
6月18日 (火)	8:30 看護学部306室 9:00-12:00 市大病院訪問 (対応 金子 薫田) 12:30-13:30 Lunch(さくらサイドテラス) 12人(対応 学部長、委員)	13:30 15:00 401室 学生交流会①(正岡春乃3年 鷺津ひかる3年 山口めぐ1年) 16:30 401室 学生交流②(追加 岩井2年、奥田4年、鈴木4年)	17:30 学生のみ 歓迎・交流会
6月19日 (水)	9:30 看護学部306室 9:30-10:00 健康科学講義打ち合わせ (対応 金子) 10:00-10:30 桜山→御器所 移動 10:30-11:30 御器所作業所見学 (対応:香月、金子、市川)	13:00-14:30 健康科学講義参加 ハルリム学生4名 名古屋市内観光など	17:50-19:20 Prof. Soo Yeon Ahn 国際保健看護セミナー 18:00-18:30 Prof. ChanYenog Kwak CNSセミナー (クリティカル、精神)
6月20日 (木)	9:00 金子 2教授ピックアップ 9:10 学生看護学部306室 (薫田対応) 9:20 本部棟・玄関、学長室 9:30-10:00 学長表敬訪問 10:00 2教授 教員ミーティング 10:00 学生 自由行動	14:00 本学学生との交流会	17:00 306教室 集合、名市大学生との夕食
6月21日 (金)	9:50 学生看護学部306室 10:00 実習室&シミュレーションセンター (対応 山口、金子)	12:50 看護学部306室 13:00 市大病院 13:00-16:00 市大病院訪問 (対応 薫田、山口)	16:30-17:30 国際交流センター 韓国人留学生交流会 18:00コミュニケーションセンター訪問、学生との懇親会
2013/6/22 (土)	学生交流(鈴木彩、正岡春乃、奥田佳男、鷺津ひかる) 名古屋城、名古屋港水族館ツアー		
6月23日 (日)	退寮 金子が寮まで出向き見送り 11時半 セントレア発		
6月24日 (月)	寮のガス、電気代支払い(金子対応)		



名市大病院の見学の前に看護部の方と



急車の前で記念撮影



実習室のモデルを試用



シミュレーションセンターにて



健康科学の講義への参加



本学学生との交流



国際交流センター（山の畑キャンパス）にて



西棟にて